# 江戸川・ふれあい松戸川の自然と活用を考えるシンポジウム




2026 年 1 月 31 日（土） 開催

江戸川・ふれあい松戸川の自然と活用について
みんなで未来への思いを描きました

本シンポジウムは、江戸川・ふれあい松戸川を、さらに楽しめる魅力的な水辺空間にするために、参加者がともに考えることを目的として開催された。市民の皆様、千葉大学、江戸川河川事務所、松戸市職員が参加し、主催者挨拶および基調講演に続き、千葉大学学生によるポスターセッション、パネルディスカッションを通じて活発な意見交換が行われた。

| | |
|---|---|
| **日時：** | **2026 年 1 月 31 日（土）13:30～17:00** |
| **会場：** | **アートスポットまつど** |
| **参加者：** | **73 名** |

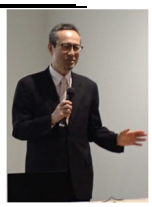
## 開会の挨拶



**｜松戸市河川清流課　毛利課長｜**

これまで松戸市では、地域の皆様や千葉大学園芸学部、国土交通省江戸川河川事務所の協力のもと、ワークショップを２回開催し、江戸川・ふれあい松戸川の魅力や課題、今後の活用について多くの意見やアイデアをいただいてきた。本日は、ご参加の皆さんと江戸川・ふれあい松戸川の自然と活用について考える有意義な時間としたい。

**｜千葉大学大学院園芸学研究院　百原研究院長｜**



ふれあい松戸川は約 30 年前に整備されて以来、樹木が生い茂り、野鳥の観察スポットにもなるなど、様々な動植物が暮らす場所へと変化してきた。当初は流水保全水路として使用されてきたが、現在はその役割を終えている。江戸川は洪水被害を防ぐ防災機能もあるが、富士山を眺めるのに非常に良い景観スポットであり、花まつりなどの催しや、かつては船着場としても栄えた歴史のある場所であることから、人と自然を繋ぐ場所として大きな可能性を秘めている。地域の自然と深くかかわる大学として、去年度よりこの河川敷の活用をテーマに、大学院の演習授業を行ってきた。本日はより多くの方々に親しんでいただける空間にするため、江戸川・ふれあい松戸川の自然再生で地域との新たな関わり方について、皆さんとともに学び、考える実りのある機会となることを願う。

## 基調講演

江戸川・ふれあい松戸川について、以下の学識経験者および行政機関の方から御講演をいただきました。

**■講演１「自然の再生と人とのかかわり」**

**｜千葉大学 小林名誉教授｜**



自然再生とは、日本の自然再生法の定義では「過去に行われた事業や人間行動によって損なわれた生態系その他自然環境を取り戻すこと」だが、日本では里山や草原のように人の働きかけが常にあって成立する自然環境も対象となる。そのため、地域の多様な主体が参加し、科学的知見に基づき、順応的に進めることが重要である。

自然再生では、まず目標とする生態系の目標像を設定するとともにその地域の環境ポテンシャルを把握し、環境がどのように変化していくか予測していくことが求められる。江戸川・ふれあい松戸川についても、浄化機能は変化したものの、水の循環や多様な魚類・鳥類の生息が観察され、河川植生については一般的な関東地方にみられる河川植生が残されている。江戸川は江戸時代につくられた川であり、ふれあい松戸川と共に“自然に戻す”という考え方では答えが出てこないと思う。

自然再生には景観や歴史的背景、地域の合意形成、実施体制、市民参加、持続的な管理の仕組みが不可欠である。特に、外来植物や環境の劣化に対処するには科学的知見と地域理解をもとに話し合いながら進める必要があり、ふれあい松戸川でも多様な主体の協働が重要である。

**■講演２「川の活用について」**

**｜国土交通省 江戸川河川事務所 松本課長｜**



かわまちづくりとは、河川空間とまちの空間を断絶なく利用し、地域住民や事業者が主体となって、日常生活や観光、レクリエーションに活かせる環境を整える取り組みである。事例として広島や新潟、松戸市（坂川）、大垣市の水辺活用があり、カフェやキャンプ場、イベントスペース、川床など多彩な利用方法により、川とまちの回遊性や地域の魅力を高めている。

制度面では、河川空間は原則自由使用である一方、独占的利用は不可であるが、国土交通省は、条件を満たせば民間事業者も営業活動ができるよう規制緩和を進めている。ただし、地域住民や行政の合意形成が前提となることが重要である。

国土交通省のかわまちづくり大賞のページの動画では、映っている活動者が非常に楽しそうにやっているところを見ていただきたい。かわまちづくりの本質は地域の人々が主役となって楽しみながら川の空間を創り上げることにある。計画策定から活用、維持管理まで、地域主体の協働によるサイクルを回すことが成功の鍵である。松戸市ではこれから協議会が立ち上げられ、主役である皆さんとともに、楽しくワクワクしながら活動していければ良いと思っている。

## ポスターセッション

『私たちが考えた江戸川・ふれあい松戸川の将来像』

｜千葉大学大学院園芸学研究科大学院生｜

ふれあい松戸川の利活用に関する演習で、千葉大学の学生が実施してきた調査・分析の成果を踏まえ、ポスター発表会が行われました。一般参加者の前で、各グループによる５分間の発表が４クール行われた後、フリータイムが設けられ、発表者と参加者が自由に意見交換を行いました。

## パネルディスカッション『みんなで考える江戸川の未来』

学識経験者と行政機関の４名によるパネルディスカッション

| | |
|---|---|
| ｺｰﾃﾞｨﾈｰﾀｰ： | 秋田典子（千葉大学大学院園芸学研究院副研究院長） |
| 登壇者： | 小林達明（千葉大学名誉教授）<br>松本在（国土交通省江戸川河川事務所流域治水課長）<br>渡辺直（松戸市建設部長） |



①現状と課題

【秋田】江戸川河川敷に造られたふれあい松戸川の建設目的は？

【松本】ふれあい松戸川は、坂川の水を浄化し江戸川の浄水場の下流へ流すことを目的に造られた。現在は役割を終えている。

【秋田】ふれあい松戸川周辺の現状の利用状況は？

【渡辺】上流河川敷で「フラワーライン」が整備され、春と秋の花まつりで賑わっている。他にカッパ市等のイベントや野鳥観察会、普段は堤防上で散歩・ジョギングやサイクリングなどが日常的に行われているが、河川敷の利用はあまりないというのが実情。

【秋田】河川敷の自然に関して、小林先生はどう思うか？

【小林】ふれあい松戸川の特徴としては、流れの多様性と河川敷の樹林があげられる。植生としては、外来種や藪が目立って人が使うには不適だ。これは河川の攪乱（増水や侵食による環境変化）が定期的ではなく突然起こるため、生態系が秩序立って発達しにくいことが原因。江戸時代以前の利根川や江戸川、中川などが網状に流れていたころの環境がここに出来ているともえるのではないか。今後、どのように管理していくかが課題。

【秋田】現在、国ではどのような管理を行っているのか？

【松本】国では、治水上必要な場合を除き、木は残している。一方で、河川管理の予算は減少傾向にあり、木の手入れや藪の除去に十分な予算が確保できないのが現状。

【秋田】松戸市では、どのような管理をしているのか？

【渡辺】ふれあい松戸川は、建設時には、人間の関与は最小限にし自然の力に任せるというコンセプトがあり、このような樹林になった。そのため、野鳥観察ができるが、治安上の問題などもある。具体的な管理としては花まつり会場や樋野口樋管前、散策路など、場所ごとに草刈りや景観の維持を行っている。在来植物や昆虫・鳥類の生態系を守るため、環境の専門家等と相談しエリアごとに隔年で草刈りを実施するなど工夫している。一方で、一部の散策路は手つかずのままの箇所もある。

②参加者からの意見

【秋田】会場の方から課題等ご意見をお伺いできたらと思う。

【参加者意見】

・北側（樋野口上流）の方は花畑があり鳥の種類が多い。

・ふれあい松戸川の広報が不十分。積極的に紹介してもらいたい。

・30 年経過していることから河川敷は部分的に荒れ放題。

・自然を紹介した教育 TV の「森羅万遊」が参考になる。

・市民やボランティアの方々が活動する土壌があるのを踏まえて子供に残せる素晴らしい川にして欲しい。

③未来（自然と共生したまちづくり）



【秋田】皆様からの質問や大学生からの提案について松戸市からコメントをお願いする。

【渡辺】まちとのつながりや周遊性を重視した提案や、歴史性を生かした空間づくり、遊びと学びを組み合わせた活用案、季節感を大切にした景観再生の提案など、それぞれのグループに特徴的なコンセプトやアイデアがあった。今後の計画作りの参考にしたい。

【秋田】小林先生の考えや松戸市へアドバイスをお願いする。

【小林】河川環境は非常に複雑なものであり、これまでの調査や研究成果も踏まえながら、より確かな生態系の見通しや方針を示せる計画へと発展することを期待する。

【秋田】ふれあい松戸川は都市に近く生態系を考えながら新しいかわまちづくりを実現していくことになるが、河川管理者としての考えやアドバイスをお願いする。

【松本】実現していくことは皆さんの思いによる。松戸市はこれだけの自然を持った河岸で散策路や小さな川のある河川敷があるという強みを持っている。学生案は素晴らしい案が沢山あり、洪水時の制約等を考慮し、現実的な調整を加えれば実現可能なもの。

【秋田】学生からの思いを各班お願いする。

【A班】歩いていて楽しい自然空間。ボランティア活動にも参加したい。

【B班】昔の納屋川岸の原風景を大切にすることを考えた。

【C班】堤防をみんなが利用しやすいエリアとすることを考えた。

【D班】皆で楽しみながら活動する植生管理の実験場とするｲﾒｰｼﾞで考えた。

④まとめ

【秋田】最後に各パネラーから感想等をお願いする。

【小林】今回の取り組みを通して多くの学びがあった。今後も市民や関係者の皆様と一緒に江戸川・ふれあい松戸川に関わらせていただきたい。

【松本】大切なのは、これまで皆さんが積み重ねてこられた活動や「こうしたい」という思いをしっかりと繋いでいくことだと思う。長年の取り組みによって水環境は大きく改善した。これからは、その成果を生かし、積極的に活用していく段階に来ている。

【渡辺】ふれあい松戸川は都市近くの貴重な自然空間で、松戸市の大きな財産。江戸川に係わる多くの関係者や、千葉大学など人的資源にも恵まれている。今後、ふれあい松戸川の魅力を更に高めることで、松戸市のブランド価値向上につながると思う。引き続き皆様のご協力をいただき、より良い環境づくりを進めてたい。

【百原】今回、江戸川のポテンシャルの高さを再確認した。管理活動等を通して植物や鳥、人の利用がより豊かになれば、多くの人が楽しめる場になると考える。皆様のご意見も参考にしながら、取り組みを進めてもらいたい。



【秋田】今日の学生の提案にはそれぞれの「ＤＮＡ」があり、必ずどこかで形になると感じている。本シンポジウムを通して、多くの人に喜びをもたらす空間づくりへの思いが共有できたと思う。

**閉会の挨拶　｜松戸市河川清流課　毛利課長｜**

これまでのワークショップやシンポジウムを踏まえ、今後は地域の皆様と協議会を立ち上げ、江戸川・ふれあい松戸川の利用計画を固めていく予定。今後も、協力願いたい。

**ポスターセッション**

『私たちが考えた江戸川・ふれあい松戸川の将来像』｜千葉大学大学院園芸学研究科大学院生｜

## A　班




## B　班



## C　班


遊びと学びを循環させるリバーパーク構想
グループC
1.ふれあい松戸川及び江戸川の現状と分析
・ワークショップ
<現状>
・草が生い茂り、景色が見えない
・子供の利用が少ない
・設備・管理の不足
・ハクビシンやアライグマなどの動物がいい
・自然が豊か
<市民の方からの意見>
・1年を通して利用できる場所にしてほしい
・土手エリアの整備
・自然と触れ合えるような利用
・子供世代も誘致できるものがほしい
・遊び場の増設
・地域全体との連携をしてほしい
・課題
・自然と触れ合うことができる場なのにうまく活用できていないこと
・松戸市全体との連携が不足していること
・設備、管理の不足から利用を促進できていないこと
・目的
1.この場所の自然を生かした体験を住民に提供すること
2.一年を通して、地域住民が利用できる空間とすること
2.コンセプトとゾーニング
賑わいから学びへ
～遊びと学びをつなぐ水辺のグラデーション～
遊びから学びへと体験が深まっていく"グラデーション"を河川空間全体で創出し利用者の興味と行動を誘発する河川空間を目指す。
各エリアの現状
北側エリア：レジャーをメインとした水辺に寄しむエリア
南側エリア：農育をメインとした松戸を知るエリア
土手エリア：インフラ整備を通したエリアをつなぐ動線
モバイル・インフラ装置：移動式のモバイル施設
3.利用モデル
・モデル例
①地域の子供およびその両親
松戸市は都内へのアクセスがよく、ベッドタウンとしての特徴を有している。平日・休日を問わず、日常圏内である河川空間で体験を提供する。
②江戸川沿い住みの周辺住民
サイクリングロードもあり、従来的な周辺住民の往来が見られる。こうした江戸川沿いに住む住民が気軽に訪れ、自然と触れ合うことのできる空間の提供を目指す。
・タイムライン・ゾーニング
1.休日の過ごし方
[昼：10:00~16:00]
賑わいと体験の時間
北側エリア体験：
親子で野菜の収穫や釣りをします。
また、収穫した食材を
そのまま調理して食べられます。
[夕方~夜：17:00~20:00]
静寂と学びの時間
ナイトサファリ・星空観察会：
夜の南側エリアで、夜行性生物の観察や星空観察を行います。
2.平日の過ごし方
[昼~夕方：15:00~17:00]
賑わいと発散の時間
放課後の体験：
学校が終わった子供たちが、
北側エリアの親水空間で水辺の自然に触れて遊ぶことが出来ます。
[夜：17:00~19:00]
静寂と没入の時間
狩猟文化体験：
狩猟文化体験：
夕食前の時間、北側エリアで短時間の焚き火で日常の疲れを癒します。
・循環モデル
地域全体の循環に関する仕組み
集い
レジャーや環境学習を通して、子供から高齢者まで多様な市民が河川敷に集まる。
交流・指導
地域の高齢者や専門家が「ネイチャーサポーター」となり、子供たちの遊びや学びをサポート。
見守り
活動を通じて多世代の絆が深まり、地域全体で子供たちを見守る安全なコミュニティが形成。
知恵の継承
交流の中で地域の歴史や自然の知識が次世代に引き継がれる。
地域資源の循環に関する仕組み
資源回収
・市内の指定枠の受け入れ
・河川敷の外来種刈り取りイベント
加工
・ワークショップでの薪割り＆チップ化体験
・肥料・堆置
(防災用燃料としても機能)
還元
・焼き残った灰を農園の肥料へ
利用
・北側エリア「焚き火ベース」での燃料利用
・無理焼き灰台の使用で、焼却処理せずにエネルギー化


4.提案
●北側エリア
1. River to Table活動
農業体験、釣り体験、そして収穫物や漁獲物の加工と共同調理を組み合わせる活動者は、関東の地元野菜と在来魚の食堂および漁獲を体験した後、食品加工ブースへ移動し、獲れたての食材を調理し、食する
持続可能な食のサイクルを体感
フローティングアイランドのイメージ図
2. ピクニック&焚き火
・昼
キッチンカーを誘致し、親子で気軽にピクニックができる芝生エリアとして開放
・夜
都心近郊では希少な「焚き火」ができるエリアとして広告化し、有料の観覧席やBBQ機材レンタルで収益化
無煙の焚き火・焼図
・北側エリア断面図
栽培・収穫エリア
収穫物の調理・加工エリア
ピクニック・焚き火エリア
広大な土手エリア
A-A'断面図
River to Table エリア
ピクニック・焚き火エリア
B-B'断面図
●南側エリア
1.外来種バスターズ
内容：
根水性を妨げる外来種植物を、子供たちが「バスターズ」として駆除・採集するイベント
学び：
在来種と外来種の見分け方・管理方法を学び、生物多様性を肌で感じる
調査で見られた在来種・外来種、ご自由に観察・駆除する
2.ナイトサファリ
内容：
専門ガイドと共に夜行性鳥類や星空などを静かに観察するナイトツアー
学び：
昼間とは異なる夜の自然を五感で感じ、街上に輝く星々と、都市のすぐ傍で野生の動物を再発見する
野鳥の会など、専門家のボランティアに会話し催開
●土手エリア
舗装をおくことによって自転車と歩行者の分断を行う休憩用スペースやイスを設けることで滞在を促進する
●快適な滞在を支えるモバイル・インフラ計画
河川敷の法的制限（増水時の撤去容易性）をクリアするため、以下の設備は全て可動式（トレーラー/コンテナ）とする
①キッチンカー・ステーション
中央エリア等の舗装路沿いに、給排水設備を備えた電源ポストを整備
②モバイルトイレ
イベント時などに活用できる快適で清潔なバイオトイレトレーラーを近・南拠点に配置

## D　班


松戸市松戸地区地図
南北断面図（9月）
植生のリ・デザイン（実験）
スタート
野焼き後
種のバランスが変化
近い未来
一年の活動と風景の移ろい
松戸川野遊びミュージアム
ー五感で感じる風景づくりー
管理や自然学習と人々の体験と繋がる空間
五感で自然を感じる癒しの空間
市民が触れる新しい緑